

異文化教育と国家シンボル

—— 国旗・国歌に関する考察を中心に ——

保 坂 律 子

Study on National Symbols for the Education of Intercultural Communication

Ritsuko HOSAKA

要旨

本文“以看得见的形式来提示异文化”为目的、
对利用作为国家标志的国旗、国歌进行异文化教育作了调查，并说明了其长处。

0. はじめに

筆者が外国語の授業のほかに「異文化との出会い」を担当するようになって5年目になる。外国語科目を担当する場合は教科書があり、辞書があり、教えるべき文法項目がある。最近ではテープやCDなどの音声教材だけでなく、ビデオやDVDもある。会話練習であろうと作文練習であろうと教材は豊富である。したがって外国語教育の現場で教育効果を高めるために何をどう教えるか悩むことがあるすれば、多くの教材や指導方法の選択肢から対象学生にあったものとして何を選ぶかであろう。しかし、異文化教育については、教育内容も教材も指導方法もさらに授業の目的も教員の裁量に任されていることが多く、教員は試行錯誤で授業を行っているのが現状だろう。本稿は筆者が「見えるカタチで異文化を提示する」ことを目指し、国家シンボルとして国旗、国歌を利用して行っている異文化授業の報告とその利点を述べるものである。

1. 「異国の文化」と「異文化」の違い

「異文化との出会い」を担当した初年度(2004年)、異文化を教えるにあたっていくつかテーマを設定し^(注1)、配布資料やパワーポイントのスライド資料を準備し授業を行った。授業後には毎回学生に疑問や意見、感想を感想票に書いてもらった。A5サイズの感想票に書かれた内容は、出席の確認とともに、彼女らが授業を通じて気づいたことや、疑問に思ったこと、関心を持ったことまで多岐にわたり細かく記されていた。予想通りの反応も多かったが、思いもよらぬコメントが書かれていることもあり、それらは現在に至るまで毎回のテーマ決定や授業準備に大いに参考となっている。この感想票記入は毎回欠かさず続けており、授業計画、展開の資である。

しかしながら筆者が資料を集め、写真やスライドを準備し配布資料も用意し、さらに時にはビデオ編集し、満を持して授業に臨んだつもりでも、その一方で学生の感想票からは「中国の文化を知る楽しい時間」ではあっても、「日本と

中国の文化の差異」「異国間の文化の差異」を意識するに到っていないと思われる回があったのも事実である。これらのことから、地理的に近い隣国であり同じ漢字文化圏に属する中国に対して、あるいは外国とはいえ私たち日本人と顔立ちも似た中国人に対し、日本人学生は文化を異にすることを意識するより共通点に多く目は向きがちなことには思い至った。したがって、中国を対象として異文化教育を考える時、「同じだと思っていたが、違っている」点を意識的に展開させることが大切だという思いを強くした。

異文化教育は単なる「異国の文化」、すなわち「外国文化」の紹介で終わるのではなく、日本と対象国とを彼此対照し「文化の違い」を意識し、違いを問いかけ、ひいてはアジアや世界における日本の立ち位置に関心を持つよう導くべきもの、「異国の文化」と「異文化」は違う。この点を学生にはっきり示すことが肝要である。

2. 学生の意識調査を利用した導入部

異文化を担当して第2年目である2005年は、初年度の学生の感想票から、「同じだと思っていたが違っていた」ことにより多く気づくことが必要と考え、授業に先立ち学生の意識調査を行った。^(注2) その結果、次にあげるように日本人学生の国旗と国歌に対する理解が予想以上に乏しいことが明らかになり、この点を十分考慮して授業を組み立てることとした。

・国旗

日本の国旗「日の丸」^(注3)について、何を表しているかを尋ねた。その結果、「考えたことが無い」学生が約半数を占め、「知っている」と答えた学生は約四分の1であり、自国の国旗に対して関心が低いことがうかがえた。(図1) なお、ここでは正解が何かについては特に示さなかった。

・国歌

国歌「君が代」^(注4)について、「歌詞の意味を考えたことが無い」と答えた学生が半数近く、「考えたことがあるが知らない」と答えた学生を合わせると85%に上り(図2)、日本人学生は国旗、国歌とも関心が低いことが見て取れた。

上記のアンケート結果から2005年の第1回目の授業では、文化が「異なる」ことを意識するきっかけとすべく「国家のシンボル」として、中国の国旗と国歌を取り上げ、日本と比較することを試みた。授業ではパワーポイントを用い、中国国旗と日本国旗を視覚から理解するようにつとめた。

授業後の感想票では国旗、国歌に対する学生の反応は次のように大別された。

- ① 中国の国旗には、地の色の赤にも、5つの星にも、星の大きさにもちゃんと意味があることがわかった。
- ② 中国の国旗の赤は「革命を象徴」という。では日本の「日の丸」の赤もそう

図1 「日の丸」は何を表しているか

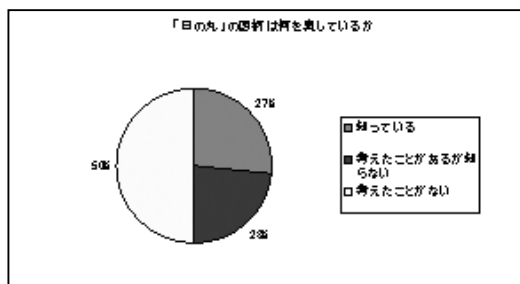
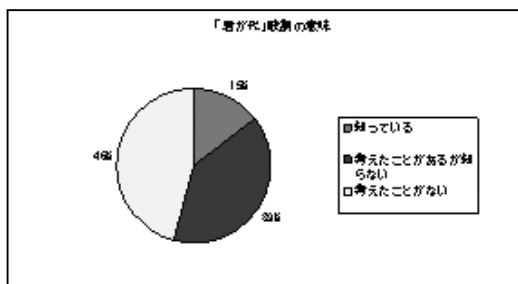


図2 「君が代」の歌詞の意味



なのだろうか？

これらのコメントからは、中国国旗を理解すると同時に、「では日本の国旗はどうなのか」と関心が日本との対照に向かっていることがわかる。

また、国歌については日本語訳をつけた中国国歌の歌詞と日本国歌歌詞は配布資料で示した上で、実際に中国国歌と日本国歌を聞かせたところ、感想票での反応は次のようなものであった。

- ① 中国国歌の「義勇軍行進曲」は、自分たちの国が誕生する時の歌なのと思った。
- ② 革命の歌詞が怖いと思うが、国ができるとはこういうことなのか。

③ 日本の「君が代」も日本が出来た時の歌なのか？

④ 他の国、アメリカやフランスの国歌も、国家として独立した時の歌なのか？


これらのコメントからは、中国国歌と日本国歌を聴くことで、国歌は国が成立する時にできるのか、アメリカやフランスなどの馴染みのある国の国歌の事情はどうなのか、日本の「君が代」はどうなのか、歌詞と国歌の成立の謂れについて関心を持たせることに成功したことが分かる。さらにこの年は中国人留学生から「私は小学校の時は、こういう姿勢で歌った」とか、国旗への敬礼の仕方などの紹介も加わって、日

図3 2006年度教科書 第1章1 ページ


異文化との出会い 【国家のシンボル】

1. 国家のシンボル

1. 1 国旗 : 五星紅旗 (ごせい こうき)
・五つの星「中国共産党指導下、人民の大団結を象徴」、赤「革命を象徴」
中央の大きい星 : 中国共産党
4つの小さい星 : 労働者
農民
都市小資本家(プチブルジョワジー)
愛国的資本家(民族ブルジョワジー)



1. 2 国章 (国徽) : 五星、天安門、麦の穂、歯車をイメージ



天安門 : 中国人民の不屈の精神の象徴
歯車、麦の穂 : 工業と農業(労働者階級)の象徴
五星 : 人民の大団結の象徴
・金と赤は吉祥と幸運を表す中国の伝統的色


1. 3 国歌 : 義勇軍行進曲 (ぎゆうぐんこうしんきょく)
中国人民の「革命の伝統と危機に備える精神」を表す

日本語訳 :

「起て！ 奴隷となることを望まぬ人々よ！
我らが血肉で築こう新たな長城を！
中華民族に最大の危機せまる
一人ひとりが最後の雄叫びをあげる時だ
起て！ 起て！ 起て！
敵の砲火をついて進め！
敵の砲火をついて進め！
進め！ 進め！ 進め！

中華人民共和國国歌

進行曲調 (大衆歌謡曲)



*国歌を歌う時や聞く時の姿勢：子供は掌を表にして右手を頭右側にかざす。大人は敬礼、もしくは子供と同様。
(<http://www.h3.dion.ne.jp/~pekochan/kokkikokka/kokkiasia/kokkichina.htm>)

本国歌斉唱の場合との違いに驚くなど、初回の学生反応は非常に良く「授業では日本と異なることに気付こう」、「自分の国と比較対照することを念頭に」と授業を締めくくり、初回以降の授業でも「日本と異なる点」の発見を促すきっかけとなった。

3. 「見えるカタチ」での授業展開

2006年度には駒沢女子大学教科書シリーズの一冊として、「異文化との出会い」を執筆することになった。履修者全員に配布する教科書では第1章「国家のシンボル」として、最初に中国の国旗、国章、国歌などを取り上げた。その第1ページは図3のようなものである。

まず第1章で国家のシンボルとして「国旗」、「国歌」、「国章」、「天安門」「竜」をとりあげた。授業ではパワーポイントのスライドショーでも解説を加え、さらにビデオで天安門広場における儀仗隊の国旗掲揚の様子を見せ、さらに留学生に国旗掲揚の際の姿勢なども実演してもらった。

3.1 中国国旗

スライドショーと実演のあと次のように補足説明を加えた。

中国国旗は正式には「五星紅旗」と呼ばれている。この「五星紅旗」は視覚的に目を引くデザインを狙っているのではなく、星にも色にも、配置にもそれぞれ意味が込められており、5つの星は「中国共産党指導下、人民の大団結を象徴」し、5つの星のうち中央の星が中国共産党を示している。またそれを囲む4つの星が「労働者」「農民」「都市小資本家」を表している。中国の国旗に見える星はいろいろな階層の人々が共産党の下に団結することを表すものである。また、地の赤は「革命を象徴」する色であり、革命後の歴史を表すものである。

この後、他の国の国旗で星が使われているも

のではないかと学生に考えるように促したあと、続いて日本国旗のスライド並べて提示し、私たちが「日の丸」と呼んでいる日本国旗は正式には「日章旗」ということ^(注5)、日本国旗はどんな意味があるのか考えるよう問いかけた。

すると、授業の感想票には次のような記述が目立った。

- ① 星は共産党と労働者、農民などを表すとはじめて知った。ほかの国の国旗もそうなのか。
- ② 赤が革命の色だと知らなかった。革命とは血の色なのと思った。
- ③ 日本の旗（原文のまま）の表す意味を知らない。
- ④ 「日の丸」が旗の正式な名称だと思っていたが、「日章旗」ということを知った。

このことから国旗を提示することで、

「国旗の図柄にも一つ一つ意味がある。」

「国旗の色にも込められた意味がある。」

ということをし、学生は意識するようになったと理解できる。

3.1.2 提示方法

授業の開始に国旗を扱う利点は多いが、端的に言うならば「学生の関心を強く惹く」ことである。言葉の説明がなくても視覚的に違いが理解でき、学生は楽しみながら違いの発見に夢中になることができ、教える側からは中国や日本に限らず、国旗はデザインも色彩もさまざまですラライドで紹介するのに適している。すなわち「視覚で相違点が目瞭然」

「ほかの国はどうなのか？」

という、他の国への関心を自然に促すことが可能なのである。スライドの提示順を、たとえば国旗に星の図柄が使われている国、地色に赤が使われている国、三色旗の国のようにグループ分けすれば、視覚に訴え、その上で共通点や

相違点を考えさせるのに効果的である。ここでは、中国国旗の赤「革命の色（血）」と、日本国旗の赤はどうやら「太陽」らしく、二つの国旗の赤は異なるということにほぼ全学生が気づいたように、同じ赤でも違うことが視覚で瞬時に理解できる。

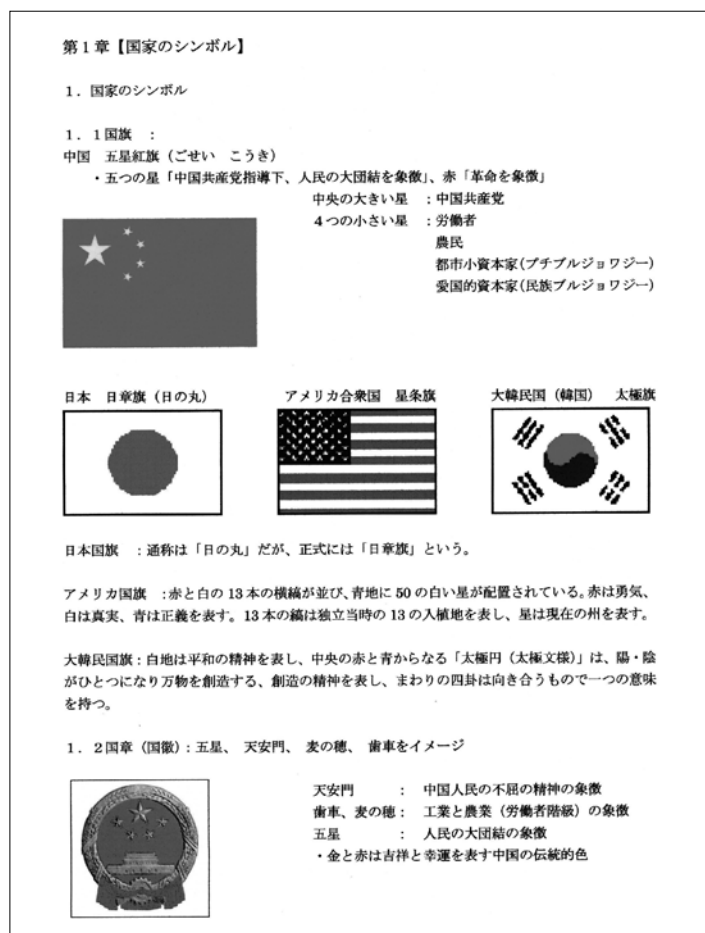
3.2 中国国歌

中国国歌「義勇軍行進曲」は、もとは1935年作の映画「風雲児女」の主題歌として作曲され、抗日戦争中に広く歌われ民族解放闘争の象徴となった「義勇軍行進曲」である。これが1949年に中国国歌として定められた。歌詞は、中国人

民の「革命の伝統と聞きに備える精神」を表し教科書には楽譜と訳も掲載し、授業では歌の入った国歌演奏と、歌の入らない曲のみの演奏とを聞かせてみた。学生の感想は次のように大別された。

- ① 曲調は明るく、テンポが速くて前向きな印象を受ける。
- ② 革命で国ができた時の歌だから歌詞が過激な気がする。
- ③ 日本の国歌は国ができた時の歌ではないのか？
- ④ アメリカやフランスなどの国歌もこんな過激なものなのか？

図4 2008年度教科書 第1章1ページ



これらの感想から、

「国歌には国の思いがこめられている」

「日本をはじめ、他の国の国歌はどうなのだろうか」

と学生は中国国歌の成立背景を理解し、日本の国歌の成立背景に興味を持ち、さらに日ごろ接する機会の多いアメリカ、フランスなどの国歌へ関心が広がった様子が見取れる。

4. 授業内容の深まり

2008年には教科書を更新、第1章国家シンボルのテーマは変えず、内容を更に深めるように工夫した。第1章の第1ページは次のようなものである。(図4)

具体的には教科書に取り上げる国を初版に載せた中国と日本のほか、本学留学生の出身国に多い韓国、さらに学生が全員ほぼ国旗、国歌を知っている国としてアメリカを取り上げた。授業では、教科書に載せた国以外の国旗を地域別にまとめてスライドで提示したり、図柄の特徴をまとめたり、提示順を変えたりして共通項に気づき易くするよう心がけた。

4.1 国旗利用のメリット

多くの国旗を取り上げることで、学生がそれ以前に比べて多くの点に気づくようになった。また、気づこうとするようになった。たとえば図柄が表すものとしては次のような点である。

- ・星はアメリカ国旗では星の数が州の数を表すが、中国では全階層の人民を表す。ベトナムは赤地に黄色い星が一つだけ。
- ・月が用いられている国旗がある。
- ・太陽の表す意味は一つなのだろうか。日本の「日の丸」と同じ図案の国旗にはバングラディシュとパラオがある。
- ・ストライプにも幅や本数がいろいろある。
- ・三色の国旗が多い

・北欧のクロスモチーフの国旗はよく似ている。

このように、国旗を比較しながら見ることで、共通項や疑問点が連鎖的に提出されるようになる。また、国旗は地域ごとの特色やその国の歴史や文化への思いが込められている場合が多いことを指摘し始めるようになってきた。

学生から共通点や疑問点が出された段階では、更に詳細な解説を加えることができる。

「東アジアの国には太陽を取り入れた国旗が多い（日本、フィリピン、バングラディシュ、ラオス）。」

「イスラムを信仰する国は緑、赤、白、黒が多く、図柄に星と月が多い。」

「北欧の国にアイスランド、ノルウェー、スウェーデン、デンマーク、フィンランドはどれも十字が入っているが、キリスト教を信仰している。民族が近いことから昔から結びつきが深い。」

また、同じ星でも、中国のように人々を表したり、アメリカのように州を表したり、またイスラムの国々ではイスラムのシンボルを表したりすることがあるように、一つの図柄はただ一つの意味を担うわけではないと展開可能である。たとえば中国国旗によく似た赤地に中央に黄色い星一つのベトナム国旗は、地の赤はやはり中国同様に革命の血の色を表すが、黄色い星は5つの方向に光りを放っており、労働者、農民、知識人、青年、兵士が力を合わせることを表すものである。東アジアの国々の国旗には日本をはじめとして、フィリピン、バングラディシュ、インドネシアなど太陽を取り入れたものがあるが、これは、古くから農耕を主とする国では太陽が生活に欠かせず、崇められていたという説明に結びつく。また、イスラム教を信仰する国の国旗にはイスラム教のシンボルである月と星を取り入れたものが多いが、それはもともとトルコの中心都市ビザンチウムのシンボルだった

ものでイスラム教の国トルコが領土を広げるにつれてイスラム教のシンボルとなっていたこと、また月が必ず三日月であるのは、これから満月になることから希望が満ちてイスラムの願いがかなうことを表すためであると説明を広げていける。また、西アジアの国ぐにの国旗には多くに、緑、赤、白、黒の4色が共通して使われているが、それはこれらの地域の国の多くがイスラム教を信仰し、アラビア語を話すアラブの国ぐにであるためである。また同じアラブの民族の国ぐにが分裂や合併をした歴史から、似たような国旗が多いこともわかる。さらに学生の認知度が高いフランス国旗のトリコロールは、自由、平等、博愛を宣言したフランス革命のシンボルであり、イタリアやルーマニアなどをはじめ同様のデザインの3色旗が多いことは、フランス革命が多くの国に影響を与えたことの説明へとつながっていく。

以上のように、授業で国旗を扱うことで、国旗はそれぞれの国の革命、宗教、民族、農耕などと多くの関わりがあることを「見えるカタチ」で存分に伝えることができる。

4.2 国歌利用のメリット

国歌について2008年度は、教科書に載せた中国と日本以外に、王室のあるイギリス、学生になじみ深いフランス、アメリカ、歌詞のない国歌のスペイン、隣国大韓民国を取り上げた。国歌は実際に聞かせながら、楽譜と日本語の訳詩をパワーポイントで提示し、それぞれの特徴と日本国歌との違いが分かるように配慮した。^(注6)

感想票の学生の反応は次のようなものであり、前年度までより一歩進んだものとなっていることが見て取れる。

- ① 国歌の歌詞がない国があるのは驚きで、国民は歌わないということなのか。
- ② 激しい歌詞の国歌がある一方で、イギリ

スや日本は控え目な感じがある。

- ③ イギリスは女王のいる国だから、女王をたたえる歌詞が前面にでているが、日本の「君」も同じような意図なのだろうか。
- ④ オリンピックで外国の国歌を聞くことはあっても、意図的に勉強しなければ国歌の歌詞知らないまま終わってしまうので、歌詞も考えるのは知識が広がる気がした。
- ⑤ イギリスは1番だけしかなく歌詞も短いのは、日本に似ている。

中国人留学生からは「国によって文化もちがうから、自分的な特徴があると思う」「国家は国の精髓だと思っている。国の文化が違うから、国歌のメロディも歌詞も違うし、表す意味も違う」(原文のまま)と力強い字で感想が記されていた。

国旗が視覚的な興味と関心から理解を助けるのに対し、国歌は聴覚的に明るい曲、テンポの速い曲、行進曲のような曲、荘厳な曲などのように、曲調や雰囲気理解を助ける。また、歌詞を同時に提示することで歌われる内容から、女王をたたえるイギリス、革命で共和制を勝ち取ったフランス、独立戦争を経て合衆国となったアメリカなどの歴史的、文化的な理解も進む。さらにスペインのように歌詞のない行進曲の国歌もあること、大韓民国のように自然をたたえる国歌をも紹介することにより、学生が「国歌」から「国家」を考えるきっかけを与えることができる。また学生の感想票からも分かるように国歌を扱うことで、歌詞からは王室のある国の国歌、革命後に作られた国歌の特徴の理解を助け、曲調から建国の沸きあがるような気配を察したり、女王をたたえる厳かな雰囲気を理解したりと、日本はもとより他の国々との比較対照を促すことができる。また、歌詞の内容だけでなく長さや何番までであるのかなども興味をひき、国旗とともに扱う相乗効果で、文化の違いを考

える極めて有効な導入部分の役割を果たすと言える。

5. まとめ

異文化授業の大きな目標は、日本と対象国を比較対照し「文化の違い」を意識し、違いを問いかけつつ、世界における日本の立ち位置に関心を持つよう導くものである。そのため、風土地理、政治制度、民族、教育、食文化、大衆芸術、生活様式等の諸相を比較しつつ両国文化を概観し、その相違点を明確にしなければならない。中国の場合は改革開放政策以後、急激な近代化や都市化による社会の変容と価値観の変化、人の移動、都市と農村の格差などの現代中国が抱える問題なども触れなければならない。異文化教育は文化の違い、「異国間の文化の差異」を理解することが基本であるが、筆者が担当する「異文化との出会い（中国）」を例にあげるならば、対象国を限ると「文化の差異」ではなくどうしても「異国の文化」の紹介、すなわち「中国文化の紹介」に偏りがちとなり、本来目指すべき「文化の相違」を見る視点が欠如しがちである。

そのような状況下で、前章までに見たように、どの国も等しく有する国旗や国歌は、任意の国同士の文化を視覚や聴覚を駆使して比較対照する異文化教育の教材として極めて優れたものである。留学生の言葉にもあるように、国旗や国歌はそれぞれの国の真髄というべきもので、各国の文化と歴史のエッセンスがぎゅっと詰まっている。特に国旗は、多くの場合地域の特徴や、植民地の歴史、独立時の国の姿、宗教との結びつきなどの理解を促すものである。学生の目の前に「見えるカタチ」として提示できる利点は大きなものである。

異文化教育の最終的な目標は「日本と中国」のように一つの対象国に限定することなく、日

本と他国間、あるいは異なる国の間の文化の相違点に気づき、比較し、日本の立ち位置を確認することにあると思う。そのためには対象国を限らず、多くの国と日本の違いに目を向ける習慣を持つために、国家シンボルを扱うことはその資たりうるのではないか。本年度初回「国家シンボル」の授業後、ある学生の感想票に「自分の国と異なった国の文化を学ぶことは、自国の文化を見つけることになると思います。日本文化を知る上でこの講義はとても重要だと思いました」とあった。国家シンボルで異文化を考えるきっかけは作ることができたと思う。今後も学生の期待に沿うように授業を展開していきたい。

<参考文献>

保坂律子 2005『異文化教育導入時における学生の意識調査とその利用』 駒沢女子大学研究紀要第12号

『世界の国旗と国章大図鑑』 2006 荻安望著 平凡社

『世界の国旗』 森重民造著 偕成社

『世界の国歌』 2006 国歌研究会編 ワニマガジン社

『世界の国歌』 1986 美山書房編 美山書房

『21世紀子ども地図館』 2001 小学館

外務省ホームページ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/world/ranking/index.html>

中国総合データ http://searchina.ne.jp/basic_duide/005.html

<注>

(1) その年度に扱ったテーマ

1. 多民族国家としての中国
2. 風土と地理—南船北馬
3. 国家シンボル
4. 教育制度と受験戦争

5. 祝祭日と年中行事
6. 冠婚葬祭
7. 北京と上海
8. タブーと縁起物
9. 色のイメージ
10. 数字の中国語
11. 中国人のアイデンティティー
12. 中国茶の世界

(2)

対象は本学学生147名、調査項目は次のとおり。

1. 自分は何民族であるか 2. 日本は単一民族であると思うか 3. 「日の丸」は何を表しているか 4. 「君が代」の歌詞の意味を考

えたことがあるか 5. 中国は単一民族であると思うか 6. 米国に住む中国人が家庭で使用する言語 7. 姿は中国人、米国に住み英語だけを話す人について 8. 華僑と華人の違い 9. 「日系人」の意味 10. 日本から海外へ移住した「移民」について

(3)、(4)、(5)

国旗及び国歌に関する法律1999年（平成十一年八月十三日法律第百二十七号）による

（国旗）**第一条** 国旗は、日章旗とする。

（国歌）**第二条** 国歌は、君が代とする。

2. 君が代の歌詞及び楽曲は、別記第二のとおりとする。

(6)

アメリカ国歌

星条旗
アメリカ合衆国国歌

作詞 F. S. Key
作曲 J. S. Smith

Vigorously $\text{♩} = 104$

O say! can you see, by the dawn's early light, What so
Proud- ly we hail'd at the twi- light's last gleaming, Whoes broad
stripes and bright stars thro' the pe- ril- ous fight, over the
ram- parts we watch'd, were so gal- lant- ly stream- ing, And the
rock- et's red glare, the bomb bursting in air, Grave
Proof thro' the night that our flag was still there. O,
say, does that Star- Span- gled Ban- ner yet wave over the
land- of the free and the home of the brave?

* 日本語訳

1. おお 君よ 曙光のなかで見えるか
黄昏の最後の光のなかでわれらが誇りに満ちて称えたものが
その太い縞と輝く星は
危険な戦いの間じゅう
われらが見守る塁壁のうえに勇壯に翻っていたが
火矢の赤い輝き 空中で炸裂する爆弾は
われらの旗がまだそこにあることを夜通し教えてくれた
おお あの星条旗はいまだ翻っているか
自由な人々の国 勇者の故国のうえに

フランス国歌

ラ・マルセイエーズ

フランス共和国国歌

Mouvement de Marche 作詞・作曲 C. J. Rouget De Lisle

Al-lons en-fants de la Pa-tri e, Lejour de
 glo-rie est ar-ri- vé con-tre nous, de la ty-ran
 ni- e L'e ten-dard sang -lant- est le- Vé ! L'éten
 dard- san gl ant est le Vé ! En ten dez vous dans les cam
 pa- gnes Mu gir ces féro ces sol dats? lis
 Vien nent jus que dans nos bras E-gor ger nos fils, nos com.
 pa- gnes. Aux ar mes, ci-toy, ens ! for
 mes vos ba-tail- lons ! Mar-chons mar-chons
 Quén sang im pur a breu ve nos sil lons

* 日本語訳

- いざ 祖国の子らよ 栄ある日は来れり！
 圧政の血に染む旗は われらにあげられたり！（繰返し）
 かの暴虐なる兵士らの 広野に叫ぶを聞かずや？
 われらの腕の中に来りて われらの妻子を殺さんとす
 武器をとれ 人々よ！ 隊伍を組めよ！
 進め！ 進め！ けがれし血をわれらが烟に注がしめよ！

イギリス国歌

神よ女王(王)を守り給え イギリス国歌

Moderato

God save our gra - cious Queen, Long live our no - ble Queen,
 God save the Queen: Send her vic - to - ri - ous, Hap - py and
 glo - ri - ous, Long to - reign o - ver us: God save the Queen.

* 日本語訳 (大意)

1. 神よ 我が尊い女王を守り給え
我が気高い女王に長寿あれ
神よ 女王を守り給え
女王に勝利と幸福と栄光を与えよ
我等の上に長く君臨されよ
神よ 女王を守り給え

大韓民国国歌

そびゆる白頭山 大韓民国国歌

Andante maestoso 作曲 安 益泰

동 해 물 과 백 두 산 이 마 트고 달 도
 록 하 느 님 이 보 우 - 하 사
Refrain
 우 티 나 마 만 세 무 - - 공 화
 삼 - 천 리 화 려 강 - 산
 대 한 사 람 대 한 - 으 로 김 이 보 전 하 세

* 日本語訳

1. 東海に水^{みづ}がれ 白頭山野^{はくとうのやま}のたらむまで
神保^{しんぽ}佑^{ゆう}り給はむ 万歳^{ばんざい}が世を
無窮^{むきゆう}花^か 三千里^{さんせんり} 華麗^{けいれい}の江山^{くわんざん}
大韓^{たいかん}人^{ひと} 大い^{おほい}なれ 長久^{ちやうきう}に保^{たも}てえむ